

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人啓正会		
事業所名	グループホームモン・サン井手園 I		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番地38		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果確定日	平成30年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「優しく・楽しく・元気よく いつも笑顔で」を理念に、職員は毎日入居者様に寄り添えるケアを心がけています。母体の医療機関との連携により、入居者様・ご家族共に安心して頂けるサービスを提供しております。地域の敬老会への参加や、毎年恒例となった夏祭りには多数の近隣住民の皆様にお越し頂いており、地域に根差したグループホーム運営に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=4271101489&SVC=0001096&BJN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年1月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフ一人ひとりが、理念に沿った目標を立て日々の支援に繋ぐ等、理念がスタッフに浸透している。自治会や地元の小学校からの依頼を受け、地域の行事や授業の一環として「和太鼓」を披露する、認知症に関する映画の上映会や救命救急の研修会に地域住民の参加を呼びかける等、地域に向けた研修会を開催し、ホームとして地域で必要とされる活動や役割を担っている。家族から出た意見や要望は全体会議で話し合い、改善策を考え実施する等、入居者様や御家族の意見を大切に、日々の運営に活かしている。個人ファイルの中に日常生活の記録が分かりやすくまとめてあり、全スタッフでモニタリングやカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また、全スタッフが介護計画を作成できるように勉強会を行っている。スタッフ間のコミュニケーションがとれ、相談し易い環境が整っている。それが入居者様と御家族、スタッフの笑顔に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	わかりやすい表現の言葉で理念を掲げ、管理者職員共に理念の実践に繋がるケアが出来るように努めている。事業所理念「優しく・楽しく・元気よく いつも笑顔で」	新人研修や月1回の全体会議で理念について話し合っている。スタッフは、一人ひとり理念に沿った目標を立て日々の支援に繋ぐ等、理念がスタッフに浸透し意識付けができています。各委員会活動も理念に沿ったテーマを掲げ、理念の実践に繋がるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会・文化祭への出展に加え、毎年法人の夏祭りに地域住民の方々も多数来て下さっている。事業所内委員会活動にて「レクリエーション・地域交流委員会」を立ち上げている。	自治会や地元の小学校からの依頼を受け、地域の行事や授業の一環として「和太鼓」を披露する、認知症に関する映画の上映会や救命救急の研修会に地域住民の参加を呼びかける等、地域住民に認知症への理解を促し、住民が気楽にホームに訪問できるように働きかけている。ホームとして、地域住民との関わりを積極的に持ち、地域で必要とされる活動や役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	より地域の方にホームについて知って頂けるよう、運営推進会議等を通して意見交換に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見・要望を活かし、より質の高いサービスが提供出来るよう改善策を検討している。	運営推進会議で会議メンバーから出た要望や意見一つ一つについて、全体会議で話し合い、改善策を検討し実施している。会議メンバーからの率直な意見を受け、それをサービスの向上に具体的に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場、包括支援センターとは日頃より連絡・相談を行っている。今年度より包括支援センター主催の認知症カフェへも定期的に参加している。	運営推進会議で顔の見える関係ができており、包括支援センター主催事業の運営の手伝いや、行政の申請書作成の相談等がスムーズに行われている。行政から入所や見学の問い合わせがある等、行政との協働関係が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で「身体拘束・虐待防止委員会」を立ち上げており、毎月の委員会活動に加え、年に1度の研修会を通して、身体拘束を行わないケアに努めている。事業所正面玄関に関して防犯上19時～6時は施錠しているが、日中は訪問しやすい雰囲気作りに努めている。	「身体拘束・虐待防止委員会」を中心に、今年「不適切な対応を改善しよう」をテーマに全スタッフで言葉遣い等の改善策を模索している。転倒リスクが高い入居者様には、毎日の申し送り時に情報を共有し、見守りや観察を続ける、各ユニットからヒヤリハットを報告し、「事故防止委員会」が集計して対応策を検討する等、抑圧感のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会活動と虐待・身体拘束に関する研修会を通して、虐待に繋がりがかねない不適切なケアについて職員間で考え、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や事業所内の会議等で話し合い、相談等に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・運営規定・重要事項説明書を用いて説明している。不安・疑問については気軽に尋ねる事が出来るような雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ入居者様・ご家族・地域住民の代表方に参加して頂き、意見交換に努めている。	家族の面会時にスタッフが声をかけ、意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。家族から出た意見や要望は全体会議で話し合い、3ユニット間で改善策を考え実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を通して、ケアに関する提案、改善策について話し合いを行っている。	レクリエーションのテーマ決定や企画内容、実施までをスタッフが考え、食材等の経費をホーム長と相談しながら自主的に行う等、スタッフの意見を運営に反映させることが入居者様や御家族、スタッフの笑顔に繋がっている。これも理念に沿った支援である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休を受け入れ、勤務とプライベートの充実に努めている。職員の提案を出しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度法人全体の研修会を開催し、ケアの知識・技術を高めたり、外部研修や介護福祉士取得に向けた実務者研修の受講も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時津・長与グループホーム連絡協議会への加入によって、事業所間での研修実施や情報交換・共有等を行う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて、ご本人及びご家族の抱える不安・要望を聞き取り、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にご家族の悩み・不安を聞き取り、入居日にはケアプランを通しての説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談から入居までの期間に電話連絡等により十分に会話を行い、ご本人とご家族の要望に沿ったサービス提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にどの程度のケアが必要かを考え、可能な限り自立した生活が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様・ご家族の関係を大事に出来るよう施設行事の参加や外出・外泊の支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問が希望される場合には連絡が取れるよう支援している。又、今年度より毎週金曜日に外出支援を組み込む事で、馴染みの場所への外出も取り組んでいきたい。	地域住民の繋がりが強いという地域性もあり、友人や近隣の住民の訪問が多い。入居者様の願いを叶えたいとのスタッフの提案を全体会議で検討し、昔住んでいた場所にお連れする、御家族と外食をする、お正月を自宅で過ごす等、地域との接点を持ちながら関係を継続させる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が友好的関わりが持てるよう職員が間に入り、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談・意見について継続的に対応できる体制を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のこれまでの暮らしや職業・趣味等について聴き取り、その意向に沿った生活ができるように努めている。	入所時に家族から聞き取りを行っている。日頃の表情から思いを把握して支援を行っている。塗り絵が好きな入居者様には地域の文化祭に作品を出展したり、趣味活動も支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴・生活環境・介護サービス利用状況等の情報を提供して頂き、フェイスシートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、入居者様の過ごし方や状況について記録し、職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録とモニタリング・アセスメントを定期的に行い、介護計画作成時には職員・計画作成担当者・ケアマネージャーの話し合いにより介護計画書を作成している。	排泄の状態やバイタルチェックを集計したものを月1でまとめスタッフ全員が一目見て把握・共有できるようにしている。3か月に1度のモニタリング会議の時は意見を出し合い、必要なケアを見出し計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には一人ひとりの毎日の状況・ケア提供時の様子が記入されており、職員間での情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態に合わせて、医療機関受診時の付き添い、外出時の見守り、気分転換の散歩やドライブ等を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加を検討し、実施する事でご本人が楽しく過ごす事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診に加え、外来受診が困難な入居者様には主治医の訪問診察での対応が取られている。体調不良時の受診同行や眼科・歯科・皮膚科等の専門医院にも受診出来るよう支援している。	入所時にかかりつけ医の調整を行う。他の診察は御家族の協力もある。月2回の往診や訪問看護ステーションより定期的な訪問もあり、24時間体制の支援が整えられ、日頃からスタッフとの連携がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや普段の入居者様の状態等を医療連携看護師訪問時に情報提供や相談している。また、体調不良時には協力医療機関の看護師へ連絡し、医師の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な場合、主治医よりご本人へ説明がなされている。早期の退院が出来るよう相談を行っており、主治医も十分に理解されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重要事項説明書にて重度化や終末期に向けた方針について説明している。医療機関と連携を取る事で、ホームで対応できる助言等を得ている。	看取りは行っていないが重度の状態になったら主治医から御家族に説明等行っている。ホームでできるだけ過ごさせる支援が共有されており、医療的な処置も踏まえながら医療スタッフと連携して支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故に備えて、協力医療機関も含めた研修会を開催している。事業所内にAEDを設置している。今後救急サポートステーション登録も検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	事業所内で「防災委員会」を立ち上げており、火災を含めた災害対策訓練を実施している。事業所内に非常食を30名×3日分が備蓄されている。	定期的な避難訓練や定期点検も行われている。あらゆる災害に基づいたマニュアルを整備している。備蓄の食料も栄養士がカロリー計算された献立で、温めてすぐ食べられる食材が3日間分用意されている。	あらゆる災害に基づいたマニュアルはあるが、実際の訓練は行われていない。火事だけでなく地震や水害等想定した避難訓練が実施できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりを尊重し、丁寧な対応を心がけている。法人内研修会にて接遇研修を実施している。	入居者様の気持ちに沿って声掛けをしたり、気持ちが乗らない際はスタッフが交代し対応するなど本人本位の支援を心掛けている。家具を移動し過ごしやすい空間を整えるなど工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にとっての希望・要望を気軽に言える環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせた日々が過ごせるよう、入浴や食事についてもご本人の体調、要望に寄り添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、一人ひとりの好みに合わせ、入居者様が望む身だしなみ、おしゃれが出来るよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態や好みに合わせた食事提供ができるよう献立作成者へ提案している。行事食に関して、入居者様へ提供メニューの聞き取り等取り組んでいる。	自立した食事につなげる為、持ちやすい食器やスプーン等用意している。クリスマス会等行事食も入居者様の要望を聞き、栄養士やスタッフが協力して楽しみながら食事ができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の記録を取り、栄養バランスの維持や適切な水分量が確保出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや入れ歯の洗浄を行って頂き、自力で行う事が困難な方には職員が必要部分を支援する事で口腔内の清潔保持が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力日中はトイレでの排泄支援を行い、一人ひとりの排泄パターン、残存能力を確認しつつ、失敗やおムツの使用を減少出来るよう支援している。	日常の排泄状態を把握し、共有した支援を行っている。入所時はオムツであっても排泄状態の記録、評価を行いトイレに誘導することにより紙パンツで過ごせるようになるなど自立した支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の適度な運動、水分補給を心がけ、便秘予防に努めている。また、便秘症の方については主治医へ相談し、必要に応じて服薬の調整等を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	プライバシー等に考慮しながら、一人ひとりの体調や希望に合わせて入浴の支援に取り組んでいる。	定期的な入浴が行われている。ユニットごとに入浴日があり、必要な時はユニット間を超えていつでも入浴が行えるようにしている。リフト浴や特浴もあり身体状態に応じた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの体調習慣に合わせて休息をとって頂くよう支援する一方で、極力日中は起きて過ごして頂くよう関わりを持って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人日誌には薬の説明書を挟めており、常時確認出来るようにしている。また、薬剤師を講師に研修会を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりが持っている能力、生活歴のが悪くても、楽しみを一緒に探したり、レクリエーションを通じて、ホームでの生活が充実するよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の体調・天候・希望に合わせてホーム周辺への散歩等を職員が同行する事で実施している。ご家族への協力依頼等にも取り組んでいる。	週に1回は外出する機会を設けている。初詣やランタン祭りに出かけたり、法人内のグループホームと合同で外出し交流を深めている。御家族と共に外出する機会もあり、通院時も一対一で対応できるよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルや困惑等に配慮し、ご本人で所持する金額は小額(数千円)でご協力頂いている。所持金で必要物品の購入等を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人と電話での会話が出来るよう、ホーム宛での電話でご本人にとりつぐ事が可能であり。利用される方も多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は不快や混乱を招かないよう照明や掃除機の音、飾り物等を考慮し、生活感のある環境作りに努めている。	窓が大きく外の景色もよく見え開放感もある。室温や湿度に気を配り加湿器も設置している。畳の部屋やソファがありそれぞれ落ち着ける場所を確保し、洗濯物をたたんだり、趣味活動をしたり有意義に過ごせる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の希望を考慮しながら、日中閉じこもりにならないよう、職員から関わりを多く持ち、入居者様同士がコミュニケーション出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品を自宅から持ち込んで頂く事もご家族へ相談している。ご本人の認知症状や身体機能に合わせ快適に生活して頂けるよう工夫している。	入所時に御家族と共になじみの物や家具を持ち込んでいる。各部屋にはトイレが整備され清潔である。備え付けのタンスも収納力があり持ち込まれた荷物も整理整頓しやすい環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置、フロア内のソファ・テーブルの配置等、一人ひとりの機能を考慮し、工夫している。		